

腸チフス患者の発生について

1 概要

6月15日、浜田保健所管内の医療機関から浜田保健所に腸チフス患者発生の届出がありました。同保健所は、患者及び接触者の健康調査と行動調査を実施しています。

2 患者

江津市在住 20代 男性

症状：高熱、脾腫、嘔吐、腹痛、下痢

経過：5月 19日 南アジアからの入国

6月 6日 高熱

9日 嘔吐、腹痛、医療機関を受診

10日 同医療機関を受診

12日 同医療機関を受診後、入院

13日 下痢

15日 検査結果が判明し、同医療機関から浜田保健所へ

腸チフス患者の届出

なお、患者は入院中です。

3. 対応状況

- ・患者及び接触者の健康調査と行動調査
- ・手洗いなど二次感染予防の指導

4. 県民への呼びかけ

海外旅行で感染症にかからないように、次のことに留意してください。

○なま水はさける。（煮沸した水やミネラルウォーターはよい）

○なまもの（生の魚介類、アイスクリーム、氷等）はさける。

○体調不良がおこった場合は、なるべく早く医療機関を受診する。

また、一般に感染症の発生を防ぐために、手洗いの励行を心がけて下さい。

○トイレ後、調理前には石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

○帰宅後の手洗いも励行して下さい。

【参考1】県内の発生状況（三類感染症）

	コレラ	細菌性赤痢	腸チフス	パラチフス	腸管出血性大腸菌
2015年			1		83
2016年					12
2017年					13
2018年		1			18(3)
2019年					8(3)
2020年					12(1)
2021年					13(3)
2022年					20(2)
2023年		1	1*		5(1)

*本県を含む

中核市松江市分を()で再掲しています。

【参考2】腸チフスの臨床症状等

腸チフスは、腸チフス菌（*Salmonella Typhi*）の感染によって起こる全身性の疾患です。

患者の便により汚染された食品や水等を介して、口から入ることによって感染（経口感染）します。潜伏期は2週間前後で、39℃以上の高熱を伴って発症し、除脈（脈が遅くなる）、バラ疹、下痢などの症状が起こります。

プライバシーを尊重した対応をお願いします。